

村山祥栄

後援会瓦版
37号拡大版
瓦版

生活保護不正受給の実態

大文字の薪は金どいへん？

学生一人一億?! 無駄過ぎる学校運営

ご報告

現業職の採用を再凍結させる条例の結末

(前号続き) 人件費が高すぎる、不祥事の温床になるなどの理由から凍結されていた現業職(ごみ収集職員など)の採用が突如再開された問題で、京都党は2月議会で再凍結させるべく議員立法を提出した。労働組合に支えられた共産党、民主党が否決するのは想定内だが、最終的に自民、公明も否決し、賛成少数で否決された。にも関わらず、ほぼ同内容の決議(条例よりも少し軽い扱い)が自民、公明、京都、みんなの賛成多数で可決した。我々からすると、議会の決議として一定の意見集約ができたことを考えると、条例は否決されたが大きな前進だと思う。

しかし、なぜこういった結果になるのだろうか。政党同士が面子優先の政治的駆け引きをした結果の成れの果てではないだろうか。全ては少数会派故の無力から来ると言われればそれまでだが、面子で政治をやる限り私は政治に未来はないと痛切に感じる。諦めず引き続き歩みを進めたい。

村山 祥栄(むらやましょうえい)経歴

- 昭53年2月7日生 下鴨在住
- 衆院議員秘書、働リクルート勤務
- 地域政党京都党代表
- 著書：京都・同和「裏」行政(講談社+α文庫)好評発売中!
- 下鴨小、東山中、東山高、専修大学法学部卒
- 25歳最年少で市会議員初当選以来、現在3期目。
- 政治姿勢：本来あるべき姿に正す「原点回帰」

生活保護の不正受給はなぜなくなるのか？

最近、芸能人のご両親が生活保護受給者だったなど生活保護の問題がクローズアップされている。かねてからこの問題に取り組んできた立場から少し実態と考察をまとめました。

京都は全国3位の生活保護都市！？

大阪ばかりが言われているが、京都市は実は政令指定都市では大阪、札幌に次いで保護率第3位。全体の3%が対象で、予算810億(24年度予算)を超える。これは、市の総予算(7300億)の1割以上で、市の教育予算(450億)に消防予算(240億)を足してもまだ生活保護費に及ばないのだ。しかも、今もなお保護費は右肩上がりが増え続け、実に深刻な財政課題となっている。

月額30万！驚愕の高すぎる生活保護費

不正受給が無くならない大きな要因のひとつは手厚すぎる保護費だ。例えば子どもを2人抱えた母子家庭世帯の場合、基本扶助、母子加算、住宅扶助等々、合わせてざっと30万円近い支給額になる。しかも手取りでだ。もちろん、一律ではないので一概に言えないが、生活保護を受けたほうが徳だ！などという不屈きな発言の温床になっていることは間違いない。しかも、民主党政権になって廃止されていた母子加算は見事に復活している。とにかく一定の減額が求められる。

結局は国の壁！地方分権進めるべし！

偽装離婚、子育て実態がないのにあるように偽装する。生業があっても失業と偽る。指定医療機関が不正請求する。その実態はとにかく酷いが、不正受給者に対するペナルティは極めてゆるい。厳しい罰則を規定したいと随分担当局とも話をしたが、国の法律である生活保護法に規定されている罰則よりも厳しいものを市独自で課すことは出来ないのだ。結局、今出来ることは、国に働きかけをすることと、刑法に従って片っ端から詐欺罪で告発するしかない。告発については、京都市もようやく重い腰をあげ取り組みを本格化させている。

次に不正の摘発についてである。近所に聞き込みをすれば、すぐに分かると思うのだが、近隣の方に〇〇宅は生活保護世帯だということがわかる為、これはプライバシーの侵害に当たるため法的に出来ないという。では、就労が可能な方には市が仕事を作ってやってもらえばどうかということを提案したが、これまた「職業選択の自由」に阻まれて出来ない。とにかく、生活保護は国の制度の為、国の厚い壁が立ちほだかる。その上、ケースワーカーには税務署や警察の様に捜査権限が付与されていない為、まともな調査が出来ない。これも国の制度の壁だ。今出来ることは、ケースワーカーを増員し、人海戦術で対応する他なく、京都党は再三に渡って増員要請と警察との緊密な連携を提案し続けている。これらこそ将に地方分権が進まない弊害なのである。



京都党の勉強会にて

生活保護は最後の砦。上手な運用を。

北九州市では生活保護を打ち切られた方が餓死した事例もある。それだけに慎重な対応が必要だ。書類主義に陥りがちな審査方法も再考が必要だし、減額も必要だ。不正受給対策もやらねばならない。しかし、一体どういった理由で生活保護受給者になるのかを考えずにはおれない。22年度の生活保護開始理由を見てみると、昔は多かった傷病が約16%に留まり、収入減少が50%にのぼる。長引く景気の低迷、非正規など不安定雇用の拡大などといった社会的問題を解決しない限りこの問題の答えは無い。そして、もうひとつ、国に現場の声が届かず、制度疲労が著しいことが実は最大の問題なのである。諦めず、引き続き取り組みを進めたいと思う。

「次々に出る行政課題！京都市大丈夫か?!」

【看護短大、生徒二人で2億円?!】

京都市看護短期大学は本年3月、閉校するはずだった。しかし、なんと不登校の生徒2名が単位不足で留年をした為、今年も存続されている。調査したところ、学校に来ない2名の生徒の為に教員、事務員計22名の職員が張り付き、運営費が4016万計上され、人件費を入れればざっと二億円の予算が計上されていることが発覚した。生徒一人につき一億円だ。しかも不登校。確かに文科省の指導で、生徒が残っている場合閉校を認めないという指針はあるのだが、民間の大学なら考えられるだろうか？他校への斡旋、相談など含めてもっと積極的にやるべきではなかったか。そもそも、22人の職員はこの一年何をして過ごすというのだろうか。職員の業務の見直し、早期の転校などを含め早急に事業廃止へ向けて取り組むことを強く追及した。(保健福祉局質疑)

【市営住宅の新規着工に待った!】

低所得者向けに作ってきた市営住宅。今年の予算は36億だが、うち16億は昨年我々が否決した崇仁旧同和地区をはじめとする旧同和地区の新規建設費なので、もちろんこれは反対だが、普通の市営住宅の改修にも18億が投入されている。空き家が急増する中、新規の建替をすべきでない。そうでなくとも、今年から空き家対策予算までついたのである。下手すると将来、郊外は50%近い空き家率になることが想定される。住宅過剰時代を迎えるにあたって、なぜ行政が税金を使ってどんどん建物を作る必要があるのだろうか。これを市営住宅の民業圧迫、縦割り行政の弊害と言うのである。(都市計画局質疑)

【府と市の二重行政の解消を行うべし!】

このたび家庭動物相談所(野犬などの殺処分などを行う施設)を廃止して新たに動物愛護センターが南区に新設される。これまでの機能に加え、動物の譲渡やドッグランの設置などに約5億円の予算が計上されている。しかし、実は同内容の施設を京都府もお隣の西京区に保有している。いわゆる二重行政だ。一方は山奥、一方は街中という立地の観点から、統廃合よりも業務の棲み分け(山奥を飼育、都会で譲渡・展示)を行い二重行政を解消すべきだと提案。府市にはこんな案件が山積している。(保健福祉局質疑)

【二重行政は役所の中にもあった!】

2月議会で道路占用料(道路使用料)の値上げ条例が出てきた。主には電柱などが主な収益だが、他にも道路上にはみ出している空中看板などもその対象だ。市内を日々見回り、指導、徴収を行っているのは建設局の職員10名だ。さて、そういった看板が景観上違反だったらどうなるのだろうか。屋外広告物の許可、規制、指導は都市計画局が職員17名体制プラス民間業者委託で、見回り、監視を行っているのだ。つまり、同じような看板を担当する部署が二箇所あり、別々に見回りをし、それぞれ3000万円ないし1億の人件費を掛けて作業をしている。無駄もさることながら、看板を出している商店から見ればどちらも同じ市役所ではないか。統合するなり、作業を集約することで無駄も省ける。何より市民に親切だ。早々に検討すべきと提案。(建設局質疑)

【中学校の学校間格差を見逃すな】

高校入試を左右する重要な中学校の定期テストだが、実態は学校によって難易度に大きな差がある。その為、A中学で内申が3の生徒がB中学へ転校すると5が付くなんてことも珍しくない。にもかかわらず、その内申点そのまま入試の点数に加算される。何とも不条理な話だ。また、教師によっては毎年同じ問題を出すズボラな教師もいる。(こういった場合過去問を持っている塾に通っている子どもは圧倒的に有利になる)これらの解消する方法は二つある。ひとつは橋下大阪市長の言うように統一試験にする方法。もうひとつは、テストを公開することだ。そもそもテストは情報公開対象情報であり、子ども達には最高の教材になる。公にすることで学校間格差ははっきりするが、これで競争原理が導入され、教育の質の向上にも繋がる。公平公正な制度の運用を。批判を恐れること無かれ。(教育委員会質疑)

五山の送り火被災松処理騒動の顛末

【問題の背景】

昨年夏、五山の送り火で陸前高田の被災松を焚く予定でしたが、二転三転し、結局焚くことを断念したという事件がありました。その松は未だに西京区の倉庫に保管されています。四月、災害がれきの広域処理の実態調査のため、改めて被災地入りをした際に、岩手県民から「大文字騒動のときの薪がまだ京都にあるらしいね」と指摘されました。京都では忘れ去られたニュースが東北では大きなニュースになっていたのです。

「薪を返して下さい。」

過日、京都府へ災害がれきの受け入れの要請に岩手県議会が入浴されました。しかし、その代表団へ京都府は驚くべきことに「要請は秘匿で」との条件をつけました。

一連の流れを受けて、ある岩手県議は、「この一年本当に皆様にはお世話になりました。私たちは支援をお願いする立場だから何も言えません。でも本音を言えば、京都は、危なくないものを危ない危ないと言う。我々は、皆さんが危ない危ないという薪や瓦礫に囲まれて暮らしています。挙句の果てに京都府にお願いに来たら『来たことは秘密で』と言われる。そんなに東北は危険なのですか？もう薪は返して下さい。広域処理の邪魔だけはしないで下さい。」そう涙ながらに仰っていました。

安全性を身をもってお示しする！

東北の心に何も添えていなかったことに気がきました。現地の生の声を京都市民に伝えるべく、急遽陸前高田に飛びました。そして、昨年五山の送り火で焚くはずだった幻の薪を譲り受けてきました。危ない危ないと言われる薪の安全性をお示しするために、私自身、寝食を共にし、自らの手で安全であることをお示したいという思いからこの薪を持ち歩いております。そして、生の声を議会で、ホームページで、街頭で紹介を続けています。

同じ日本人として、また風評被害の震源地として、とにかく早急に対応せねばならない。5月議会では、議会で本件の処理を求める決議を行うべく奔走。結果として、期限を求めた京都党版と期限を求めない3党派提案版の2本が提出されるに至りました。我々の期限付きは否決、3党派共同提出分は我々も賛成し可決しました。結果、市長より議会に本件について初めて正式に報告があり、解決に向け取り組みを進めることが約束されました。

追記 この瓦版が頒布されている頃にはこの問題が解決していることを切に願うばかりです。



災害がれきを調査する本人



ゴミ袋に入れ保管された薪



肌身離さず持ち歩いている薪

村山祥栄友の会会員募集

会員証の発行や市政の今を綴った機関紙「京都再生」(年4回・8P)の郵送を通じ、継続的に村山祥栄の政治活動にご理解賜りご支援頂ける会員を募集しております。宜しくお願いします。

年会費 一口3000円 その他、カンパも承っております。

友の会・カンパ振込先:郵便振替00970-2-181324 名義 村山祥栄政策フォーラム

各種お問い合わせ先 村山祥栄事務所電話075-712-9962 FAX712-9963